

22 石臼を碾きながら

このうたは、おんちゃんらの小さかったころ、中村(なかむら) (北中町)のおばあさんらの手伝いをして、石臼で黍や豆や蕎麦を碾く時に、聞かされたうたの一部や。毎日毎日聞かされたんで、七十をすぎても、ぜんぶおぼえているんや。

このうたに合わせでゴロゴロゆっくり石臼をまわすと、ちよつといいあんばいの粉ができたんや。



- 信心喜ぶその人は、口には唱名、手には数珠、仏や菩薩に護られて、浄土に生まれる道すがら、それゆえ行儀に気をつけて、なるべく悪事を慎めよ。
- 迷いの娑婆に居る内は、欲も起これば腹も立つ、強欲、我欲の風吹かば、信心歡喜の戸を立てよ。
- 迎えし嫁を憎むなぞ、嫁も他人の可愛い子ぞ、我が子も何れ縁付かば、必ず他人の嫁となる。
- 兄や弟、姉妹も前後に生まれて別なれど、その根は同じ父と母。
- 娑婆は即ち堪忍ぞ、成る堪忍は誰もする、成らぬ堪忍するのこそ、念仏行者の務めなり。

このうた、もっとももっと続けど、今日はこのへんにしとこうの。